

今週の言葉



内山学長、新入生に贈る（入学式における学長告辞より）

4月に各大学の入学式が行われ、その中で、信州大学長の山沢清人先生が、「スマホやめですか、それとも信大生やめですか」。「無為に時間をつぶせる機会が増えている。スマホのスイッチを切って、本を読み、友達と話し、自分で考えることを習慣づけよう」と語られ、ちょっと話題になりました。

本学では、内山学長は、二人の偉人の言葉を引用して、次のように話されました。インド独立運動の指導者マハトマ・ガンジーは「ある人に可能であることは、万人にとって可能である、と信ずる」と述べている。怠ける気持ちを捨てさえすれば、どんな困難なことも成し遂げることができる。またドイツの文豪ヴォルフガング・フォン・ゲーテは「常によりよい目的を見失うことなく、努力を続ける限り、最後に必ず報われる」と表現していると新入生を激励されました。



今、大学4回生、短大2回生は、就職活動真っ最中です。今年より、就職活動が3月に求人情報が解禁と後倒しになった分だけ、就職活動の期間が短縮されてしまったこと、また採用する側も、当初の協定もさることながら果たしてこの日程で、新卒が確保されるのかなどの学生、企業のそれぞれの思惑が交錯し、手探りしながらの就職活動になっています。

入学式の学長の言葉を、お借りいたしましたのは、今まさに4回生、短大2回生の皆さんに噛みしめて欲しい気持ちの持ち方だったからなのです。就職活動はあきらめないこと、粘り強く、最後まで活動することが求められます。限られた期間の中で、それほど簡単に結果がでる活動ではありません。

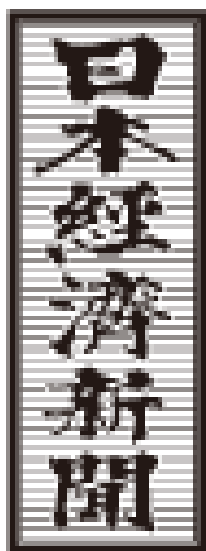
でも、誰かが内定をとっていることは、自分にも取れると信じて、動きましょう。

キャリアサポート室



「日経新聞の読み方」セミナーの開催案内

大学3回生・短大1回生向け



今年度も、昨年に続き、タイトルのセミナーを開催いたします。詳細は、追って掲示いたしますが、3回生の基礎ゼミの時間を予定しています。



開催日時：4月28日（火）16：10～（5限目）4103教室

さて、ではなぜ「日経新聞」なのかということになるのですが、この新聞は、企業のトップから、人事部長、人事担当者などは必ず読んでいる新聞なのです。

ただ、この新聞は、学生にはなじみがなく、しかも字も小さく、読み力もふってなくて、一日分で、44ページもあります。活字離れの進んだ学生には、どちらかというと読みたくない新聞ですが、就職活動には必読の新聞なのです。

この新聞のどこを読んでおくべきなのか、毎日の記事のどこに注目しておくべきのかなど、たいへんわかりやすく、日経新聞のプロが解説されます。

自分の就職活動を考えるうえで、新聞の中の記事をどのように読んでいけばよいかなど、今からの取組みに、良い参考になると考えています。

3回生だけでなく、時間のある学生は、ぜひ聞きにきてください。

キャリアサポート室